

十月十七日ようやく建物が完成し引き渡しとなった。その前の確認検査では外壁の板に大きく欠けた部分が見つかり、なんとという工事の仕方かと腹がたつたが、あとでご近所に聞くとキツツキの作業だったとわかった。向こうにしてみればナワバリに断りもなくつくられた大きな箱を調べてみたということなのだ。飛んだとぼちちりを受けた工事業者さんには申し訳なかった。引き渡し後に、新築特有の匂いを避けて換気のために窓を開放していたら、突然、一羽の小鳥が部屋に飛び込んできて大騒ぎになった。幸い壁に激突することもなく無事に外に戻って行ったが、確実に彼らの世界に侵入したのはこちらだと実感させられた。

このほかに完成までは色々あったが、それはおいておこう。とにかく完成したのだ。

ただ、やることはいろいろあつて、まずしなければいけなかったのは、フロアリングのワックスがけだった。とにかく工事費用を切り詰め自分たちでできることはやるという方針だったので、がらんとした部屋に買ったばかりの布団を敷いて、三日がかりの仕事になった。

ダイニングテーブル作り、カーテンレールの取り付けなど細々としたことがあるいろいろあり、それらはみな週末作業だったので、なんとか落ち着いたのは一ヶ月半後ぐらいであった。

もう十二月も半ばになり、そろそろ雪の季節かと思つていたらドカンと来た。S市の街中も結構積もつていたが、除雪が行き届いていて車は動かせたので、週末は竹山でと来て見ると六十センチの積雪で、幹線道路から家に行く道はとも車で行くことができない。隣家の友人宅に車を置かせてもらつて、家まではパウダースノーをラッセルしながらようやくたどり着くことができた。翌日は晴れて時々雪が降る程度に収まったが、とにかくやらなければならぬのは雪かきだ。

だが、とにかく広い。悪戦苦闘していると見かねた隣の見知らぬ方が小型のユンボで助けてくれた。このSさんかなりの高齢とお見受けした。住人ではないのだが、長らくここで働いていて昔のことも詳しく、あとあといろいろなことを教えてくれることになる。

幹線道路から家までの二百メートルの道の除雪まではさすがに手がでなかつたが、ここは、隣近所で除雪組合をつくつていて、市から除雪のための補助をいただき自分達で除雪業者をお願いする仕組みになっていた。さっそく組合に入れていただき。ほどなく、大型の除雪車がやってきてくれてなんとか車も動かすことができるようになった。

十日後に竹山に来た時も、また車が雪で立ち往生してしまった。これでは来年早々に四駆の車に買い換えなければならない。

また、お金がかかる。
そんな感じて最初の竹山の日々は始まった。

